



2021年6月29日

各位

会社名 株式会社 W a q o o
代表者名 代表取締役社長 井上 裕基
(コード番号：4937 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 早川 明宏
(TEL. 03-6805-4600)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2021年6月29日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2021年9月期（2020年10月1日～2021年9月30日）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報については、別添のとおりであります。

【個別】

(単位:百万円、%)

項目	決算期	2021年9月期 (予想)			2021年9月期 第2四半期累計期間 (実績)		2020年9月期 (実績)	
		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売上高		4,681	100.0	3.9	2,462	100.0	4,504	100.0
営業利益		144	3.1	34.9	41	1.7	107	2.4
経常利益		132	2.8	22.0	38	1.6	108	2.4
当期(四半期)純利益		145	3.1	47.7	32	1.3	98	2.2
1株当たり当期 (四半期)純利益		52円47銭			11円99銭		36円45銭	
1株当たり配当金		0円00銭			0円00銭		0円00銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2020年9月期(実績)及び2021年9月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益金額は期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 2021年9月期(予想)の1株当たり当期純利益金額は公募予定株式数(191,400株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大76,400株)を考慮しておりません。
4. 2020年6月25日付で普通株式1株につき5株の割合で、また2021年3月12日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記では、2020年9月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。

【2021年9月期業績予想の前提条件】

1. 当社全体の見通し

当社は、「テクノロジーの力で自国の未来に希望を創る」をミッションに掲げ、その実現に向け、D2C (Direct to Consumer) (※)事業を行なっております。現在、D2C事業の商材として、以前よりアジャイルでの商品開発やWEBプロモーション、CRMに関する知見を蓄積してきた化粧品分野において、デジタルマーケティングを活用したオリジナルブランドの企画・開発 (OEM先との共同開発) を行い、製造に関しましてはOEM先に委託し、自社のECサイト等を通じて一般消費者に直接販売しております。その他、卸売販売と海外 (台湾) でも事業を展開しております。

当社の主要事業である物販系分野のBtoC-EC国内市場規模は、2019年に10兆515億円 (前年比8.1%増)、そのうち化粧品、医薬品のEC市場規模は、6,611億円 (前年比7.8%増) と堅調に推移しております。(出典: 経済産業省2020年7月22日公表「電子商取引に関する市場調査」)

特に化粧品市場においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド需要の低迷、巣ごもりやリモートワークの増加等により特定の商品カテゴリー (メイクアップや口紅等) の需要が減少する中、基礎化粧品カテゴリーにおいては、需要の減退が顕著でなかったことに加えて、当社の販売チャンネルがEC中心であったことから、業績は堅調に推移致しました。

このような状況下において、2021年9月期は、新規顧客獲得のための広告宣伝費の投下、タレントタイアップや各種CRM施策の実施、販路拡大施策の一環として卸売販売にも注力してまいりました。下半期におきましても上半期の施策を踏襲してまいります。

これらの結果、2021年9月期の業績は、売上高4,681百万円 (前期比3.9%増)、営業利益144百万円 (前期比34.9%増)、経常利益132百万円 (前期比22.0%増)、当期純利益は145百万円 (前期比47.7%増) と、前期比増収増益を見込んでおります。

※D2C (Direct to Consumer) : メーカーが製造した商品を、メーカーが運営するECサイト (ショッピングサイト) 等を通じて、ユーザーに直接販売すること

2. 業績予想の前提条件

(1) 売上高

売上高は、当社の主力製品であるHADA NATUREの国内予算作成根拠につきましては、新規売上及び定期売上ごとに目標件数と平均単価を設定し、売上計画を策定しております。

①国内販売 (EC) 売上

国内販売 (EC) 売上においては、商品のライフサイクルに合わせて、売上計画を策定しております。

クレンジング・美容液は、現状の売上を維持する方向で前期と同程度の目標件数とし、新規獲得件数は、2020年9月期の獲得件数を基に、季節要因や広告宣伝費投下金額を勘案し月毎に件数を策定しております。定期獲得件数は、2020年8月時点での出荷件数を基準とし、一定の解約率と、上記の新規獲得件数が定期に切り替わる件数の月別推移を考慮して策定しております。両者の件数に2020年9月期の平均単価を乗じて売上を策定しております。

美白洗顔においては、実績を基に継続的な成長を見込んだ目標件数（前期比約20%増）を設定し、2020年9月期の平均単価を用いて売上を策定しております。他商品のクロスセル(※)売上においては、前期（2019年10月から2020年8月）の実績を基に想定率（クレンジングの定期売上に対するクロスセル販売実績率）を設定し、クレンジングの定期売上に乗じて算出しております。

※クロスセル：定期購入のお客様に新たな商品をご購入いただくための施策

②卸売上

卸売上においては、2020年9月期の下期の月間平均売上（本格的に卸販売を開始した2020年3月から6月の売上からイベント売上等のスポットの売上を控除して算出）に年間月数を乗じて売上を策定しております。

また、海外売上においては、2020年9月期の月次売上推移の減少傾向を基に売上を策定しております。

これらの結果、2021年9月期売上高は4,681百万円（前期比3.9%増）を見込んでおります。

(2) 売上原価、売上総利益

売上原価は、前期（2019年10月から2020年8月）の実績を基に、商品毎かつ販路別に算定された想定原価率を売上計画値に対して適用することにより策定しており、727百万円（前期比15.5%増）を見込んでおります。

なお、原価率の高い卸売上が伸長することに伴い原価率は上昇するものの、売上高全体の伸長により売上総利益は増加し、売上総利益は3,953百万円（前期比5.2%増）を見込んでおります。

(3) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費につきましては、主に広告宣伝費、販売手数料、人件費、その他経費によって構成されております。

広告宣伝費につきましては、主に、売上高の策定根拠である前述の新規獲得件数にCPAを乗じて広告宣伝費の投下金額を見積もり、2,088百万円（前期比5.6%増）を予算として計上しております。なお、2021年9月期上半期において、インターネット広告単価の上昇傾向を踏まえ広告宣伝費の消化を抑制した結果、予算の未消化が生じておりますが、下半期においては炭酸化粧品という季節性による獲得効率（インターネット広告単価）の改善により、広告宣伝費の年間計画通りの消化を見込んでおります。

販売手数料につきましては、国内D2C売上及び海外売上高に応じて前期（2019年10月から2020年8月）の実績率に基づきコストを見積もっております。

人件費につきましては、人員計画に基づき算定しており、国内D2Cにおける収益拡大、管理体制の強化を目的として、3名の増員を予定しております。

これらの結果、販売費及び一般管理費は3,808百万円（前期比4.4%増）、営業利益144百万円（前期比34.9%増）を見込んでおります。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外収益は、発生を見込んでおりません。また、営業外費用につきましては、上場関連費用の発生と、借入金返済計画の見込値に基づき、支払利息の発生を見込んでおります。

これらの結果、経常利益は132百万円（前期比22.0%増）を見込んでおります。

(5) 特別損益、当期純利益

特別利益及び特別損失は見込んでおりません。法人税額等につきましては、利益計画に基づいて法人税等を算出し、併せて税効果会計による影響を加味して算出しております。

これらの結果、当期純利益は145百万円（前期比47.7%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されております業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上



2021年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年6月29日

上場会社名 株式会社Waqoo 上場取引所 東
 コード番号 4937 URL https://waqoo.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)井上 裕基
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)早川 明宏 (TEL) 03(6805)4600
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第2四半期の業績(2020年10月1日~2021年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第2四半期	2,462	-	41	-	38	-	32	-
2020年9月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第2四半期	11.99	-
2020年9月期第2四半期	-	-

(注) 1. 2020年9月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2020年9月期第2四半期の数値及び2021年9月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第2四半期	1,649	244	14.8
2020年9月期	1,178	161	13.7

(参考) 自己資本 2021年9月期第2四半期 243 百万円 2020年9月期 161 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	-	-	-	0.00	0.00
2021年9月期	-	0.00	-	-	-
2021年9月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の業績予想(2020年10月1日~2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,681	3.9	144	34.9	132	22.0	145	47.7	52.47

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年9月期2Q	2,733,378株	2020年9月期	1,353,175株
2021年9月期2Q	-株	2020年9月期	-株
2021年9月期2Q	2,720,161株	2020年9月期2Q	-株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注) 1. 当社は、2020年9月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられます。先行きにつきましては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあり、持ち直していくことが期待されます。ただし、感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要があります。

また、当社の主要事業である物販系分野におけるBtoC-EC市場規模におきましては、2019年度に10兆515億円で前年比8.1%増となっており、そのうち化粧品、医薬品のEC市場規模は、6,611億円で前年比7.8%増と伸長しております（経済産業省2020年7月22日公表「電子商取引に関する市場調査」より）。

このような状況の中、当社は定期購入顧客獲得による長期継続型収益モデルを推進してまいりました。当第2四半期累計期間におきましては、広告宣伝費の投下による新規顧客獲得、新規のタイアップや各種CRM施策の実施、新たな販路として卸売販売が伸長したことなどから、結果として商品の出荷本数が増加致しました。なお、他の主要経営指標につきましては引き続き当社の想定通り進捗していることから、当社における新型コロナウイルス感染症の影響は当第2四半期累計期間において軽微であります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,462,760千円、営業利益41,108千円、経常利益38,300千円、四半期純利益32,613千円となりました。

なお、当社はD2C事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は1,618,226千円となり、前事業年度に比べ466,479千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金の増加315,921千円、売掛金の増加2,514千円、商品の増加155,807千円によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定資産は31,680千円となり、前事業年度に比べ4,669千円増加となりました。これは主に、ソフトウェアの増加6,076千円によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は915,254千円となり、前事業年度に比べ149,558千円の増加となりました。これは主に、買掛金の増加60,445千円、短期借入金の増加18,510千円、1年内返済予定の長期借入金の増加84,972千円、未払金の増加19,755千円によるものであります。

当第2四半期会計期間末における固定負債は490,640千円となり、前事業年度に比べ238,904千円の増加となりました。これは長期借入金の増加238,904千円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は244,012千円となり、前事業年度に比べ82,685千円の増加となりました。これは有償第三者割当により資本金と資本準備金がそれぞれ25,000千円ずつ増加、四半期純利益32,613千円を計上したことにより、利益剰余金が32,613千円増加したことによるものであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の減少は、66,607千円となりました。これは主に、税引前四半期純利益38,300千円の計上、たな卸資産の増加161,668千円、仕入債務の増加60,445千円、未払金の増加19,755千円、未払費用の増加22,844千円、未払・未収消費税等の増減47,589千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、7,577千円となりました。これは、無形固定資産の取得による支出7,577千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は、390,107千円となりました。これは主に、長期借入れによる収入400,000千円、長期借入れの返済による支出76,124千円、株式の発行による収入50,001千円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の業績予想については、本日公表いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	474,065	789,987
売掛金	358,667	361,182
商品	179,665	335,472
原材料及び貯蔵品	24,059	29,920
その他	115,289	101,663
流動資産合計	1,151,747	1,618,226
固定資産		
有形固定資産	1,264	1,022
無形固定資産	15,835	20,771
投資その他の資産	9,911	9,886
固定資産合計	27,011	31,680
資産合計	1,178,758	1,649,906

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	87,241	147,686
短期借入金	207,490	226,000
1年内返済予定の長期借入金	128,336	213,308
未払金	225,043	244,798
未払法人税等	19,395	8,875
返品調整引当金	-	255
その他	98,190	74,330
流動負債合計	765,695	915,254
固定負債		
長期借入金	251,736	490,640
固定負債合計	251,736	490,640
負債合計	1,017,431	1,405,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	309,292	334,293
資本剰余金	301,292	326,293
利益剰余金	△449,258	△416,644
株主資本合計	161,326	243,942
新株予約権	-	70
純資産合計	161,326	244,012
負債純資産合計	1,178,758	1,649,906

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
売上高	2,462,760
売上原価	446,768
売上総利益	2,015,992
返品調整引当金繰入額	255
差引売上総利益	2,015,737
販売費及び一般管理費	1,974,628
営業利益	41,108
営業外収益	
受取利息	1,502
雑収入	121
営業外収益合計	1,623
営業外費用	
支払利息	1,875
株式交付費	350
株式公開費用	2,000
雑損失	205
営業外費用合計	4,431
経常利益	38,300
税引前四半期純利益	38,300
法人税、住民税及び事業税	5,686
法人税等合計	5,686
四半期純利益	32,613

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	38,300
減価償却費	2,883
返品調整引当金の増減額(△は減少)	255
受取利息及び受取配当金	△1,502
支払利息	1,875
株式交付費	350
株式公開費用	2,000
売上債権の増減額(△は増加)	△2,514
たな卸資産の増減額(△は増加)	△161,668
仕入債務の増減額(△は減少)	60,445
前払費用の増減額(△は増加)	11,906
未払金の増減額(△は減少)	19,755
未払費用の増減額(△は減少)	22,844
未払法人税等の増減額(△は減少)	△4,502
未払・未収消費税の増減額(△は減少)	△47,589
その他	2,629
小計	△54,530
利息及び配当金の受取額	1,502
利息の支払額	△1,875
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△11,703
営業活動によるキャッシュ・フロー	△66,607
投資活動によるキャッシュ・フロー	
無形固定資産の取得による支出	△7,577
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,577
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	18,510
長期借入れによる収入	400,000
長期借入金の返済による支出	△76,124
株式の発行による収入	50,001
株式の発行による支出	△350
新株予約権の発行による収入	70
株式公開費用による支出	△2,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	390,107
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	315,921
現金及び現金同等物の期首残高	474,065
現金及び現金同等物の四半期末残高	789,987

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。